令和８年度　市岡東中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

１　全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式 （CBT＝Computer Based Testing）で実施。

学年		生徒数（人）	平均正答率（%）		平均無解答率（%）		平均IRTスコア
実施月日			国語	数学	国語	数学	(参考)英語３技能
３　年	学校	108	58	55	6.7	11.2	524
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。
　この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。
※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

＜国語＞
【成果】本校の国語の調査結果において、基礎的な知識・技能を問う問題や選択式問題において、一定の学力の定着が見られる。具体的には、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、単語の識別について理解しているかをみる問題（「投げられる」を説明する選択問題）では、全国平均を上回る高い正答率（本校77.1%、全国70.2%）となった。また、「情報の扱い方に関する事項」全体の平均正答率も67.6%と、本校の学習指導要領の領域別の中では最も高い結果を示している。これらの結果から、日々の授業を通じて基本的な文法の知識を身に付ける基礎的な力が着実に育っていることが伺える。今後も、生徒たちが取り組んできた語句の意味を正しく理解する学習の成果を、さらに確実なものへと伸ばしていく。
【課題】「読むこと」の領域や記述式問題に大きな課題が見られる。特に、目的に応じて必要な情報に着目して内容を解釈する問題や、自分の考えを整理して条件に合わせて記述する問題で、全国平均を10ポイント以上大きく下回る結果となった。
＜数学＞
【成果】数学の全体的な平均正答率は55.0%であり、全国水準の57.0%に迫る結果となった。特に領域別では「数と式」の平均正答率が67.3%と高く、全国の67.8%とほぼ同水準であり、本校の強みと言える。具体的な問題を見ると、文字式の同類項をまとめる問題（79.4%、全国比+8.9ポイント）や、反比例の表から値を求める問題（60.7%、全国比+5.4ポイント）、確率を求める問題（63.6%、全国比+3.4ポイント）で全国を上回る優れた結果を残している。また、評価の観点別では「知識・技能」が62.6%（全国63.0%）と着実に定着している。加えて、グラフから座標を読み取る問題（78.5%、全国比+3.3ポイント）など、基本的な情報を正確に捉える力が備わっていることが確認できた。
【課題】域別では「図形」（43.0%）や「データの活用」（49.8%）に課題があり、全国を下回っている。また、「思考・判断・表現」の正答率が31.1%と低く、度数分布多角形を比較して根拠を論理的に記述する問題等に弱さがある。
＜英語＞
【成果】全体的な英語4技能の平均正答数は4.9問であり、全国水準の4.4問を上回る優れた結果となった。特に「読むこと・書くこと」の平均正答数は3.0問（全国2.5問）と本校の大きな強みである。読むことでは、文章からグラフの空所を読み取る問題（73.1%、全国比+5.8ポイント）や、メールの時刻を把握する問題（78.6%、全国比+6.2ポイント）で全国を上回った。書くことでは、交流会で一緒にしたいこととその理由を書く問題（23.5%、全国比+7.1ポイント）や、普段行うことを説明する問題（28.9%、全国比+11.0ポイント）で全国水準を大きく超えている。話すことにおいても、一緒にしたいことと理由を話す問題（48.6%、全国比+12.0ポイント）で高い正答率を示し、自分の考えや理由を適切に表現する力が備わっている。
【課題】書くことにおいて、動詞の過去形（規則・不規則）を用いて昨日の出来事を正しく記述する基本的な問題が全国を下回っている。また、話すことでは、学校生活をよくする方法について自分の考えと理由を話すなど、やや複雑な内容を伝える力に課題がある。

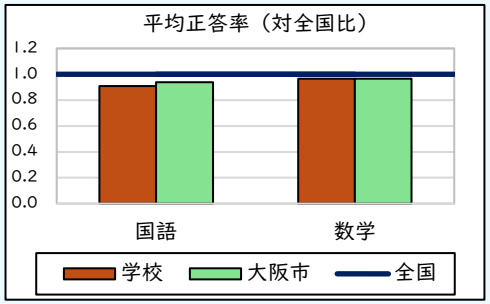
今後に向けて

＜国語＞目的に応じて文章の要点や構成を正確に読み取る読解力の育成に努める。また、他者と意見を交流する中で自分の考えを深め、根拠や理由を明確にして論理的な文章にまとめる表現活動を積極的に授業へ取り入れていく。
＜数学＞図形やデータの活用領域において、根拠を明らかにして論理的に説明する活動を授業に積極的に取り入れる。複数の情報を比較・解釈し、数学的な表現を用いて自分の考えを記述する力を育成する。
＜英語＞動詞の過去形など、基本文法の正確な定着を図るため、書く活動を通じた反復練習を充実させる。また、学校生活などのテーマについて、自分の考えや根拠を即興で論理的に話したり書いたりする表現活動を授業に積極的に取り入れる。

令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

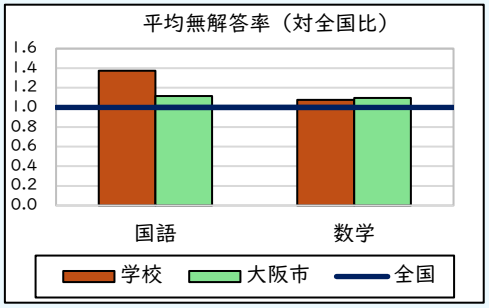
平均正答率（%）

	国語	数学
学校	58	55
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



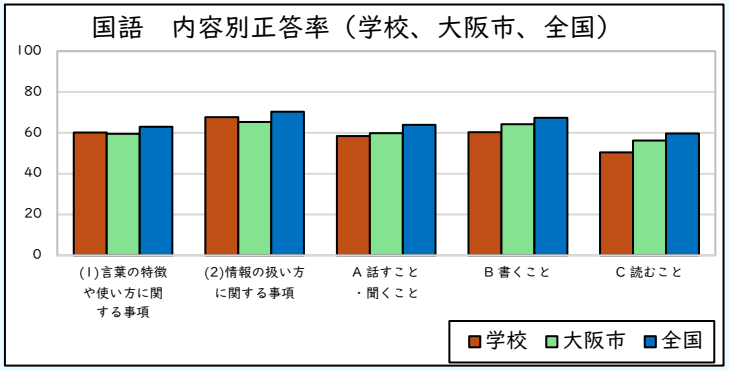
平均無解答率（%）

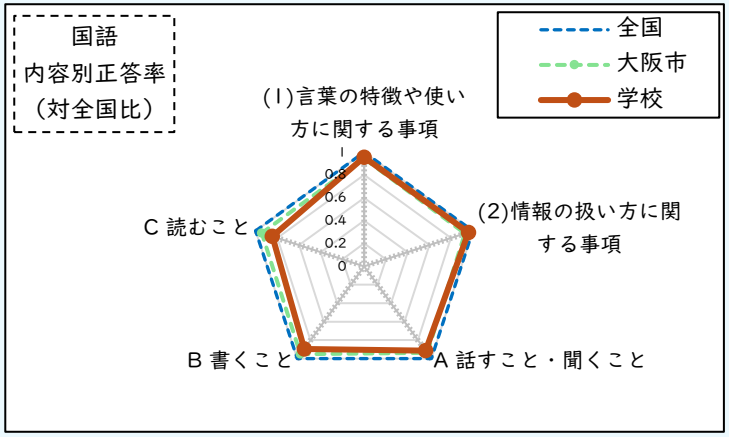
	国語	数学
学校	6.7	11.2
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



【国語】内容別正答率

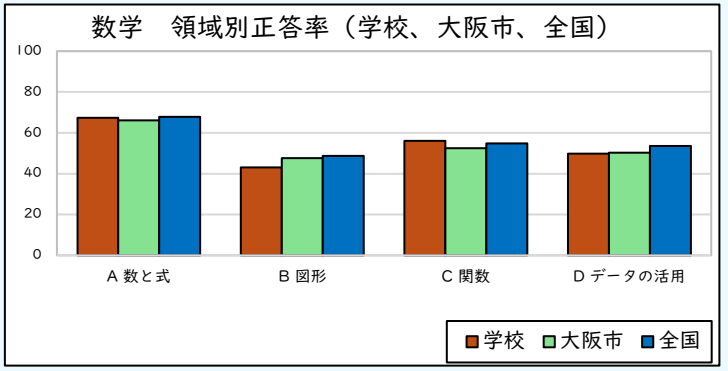
学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	60.2	59.5	63.0
(2)情報の扱い方に関する事項	1	67.6	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	－	－	－
A 話すこと・聞くこと	3	58.4	59.9	63.9
B 書くこと	3	60.3	64.2	67.4
C 読むこと	3	50.5	56.3	59.7

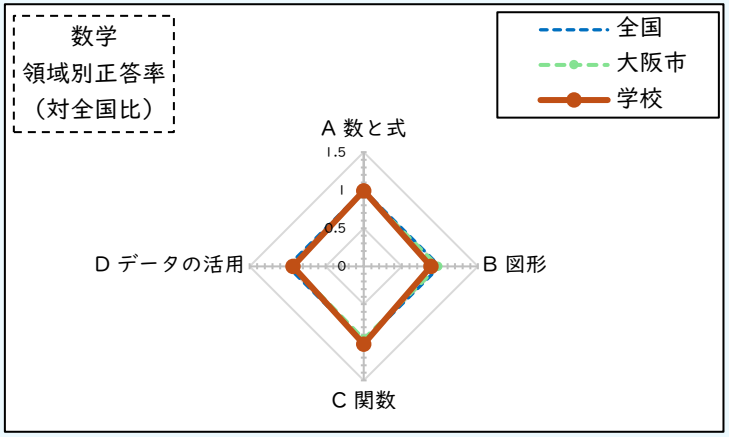




【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
A 数と式	5	67.3	66.1	67.8
B 図形	4	43.0	47.6	48.7
C 関数	3	56.1	52.5	54.8
D データの活用	4	49.8	50.2	53.5

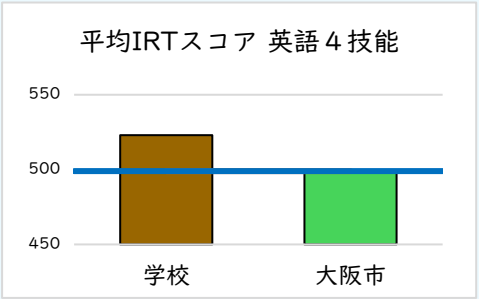




令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（英語）

英語　平均IRTスコア

学校	523（524）
大阪市	499（499）
全国	499（499）



※４技能の平均IRTスコアです

※（　）内は３技能の平均IRTスコアです

【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力に よるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和８年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

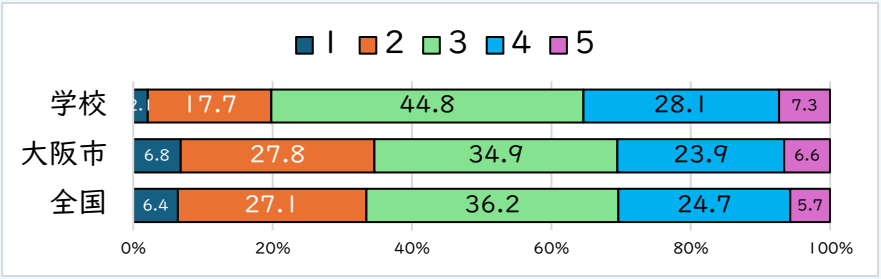
IRTスコアを１～５の５段階に区切ったものです。３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドとなります。

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

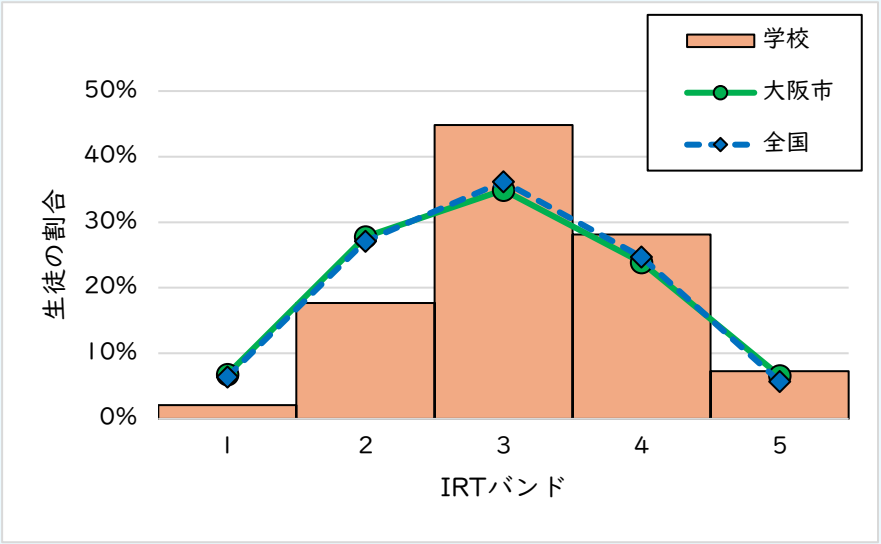
	IRTバンド分布比較（４技能）				
	１	２	３	４	５
学校	2.1	17.7	44.8	28.1	7.3
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.4	27.1	36.2	24.7	5.7

※４技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（４技能）



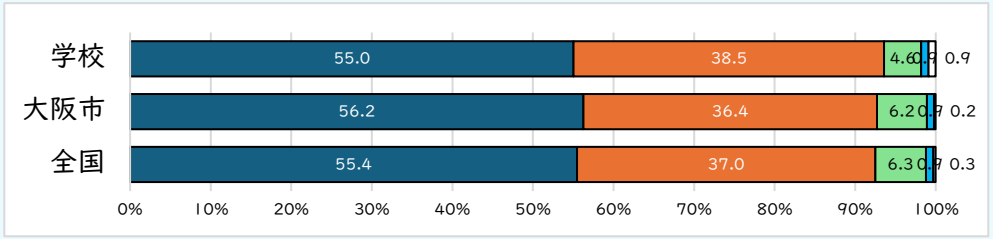
IRTバンド分布グラフ（４技能）



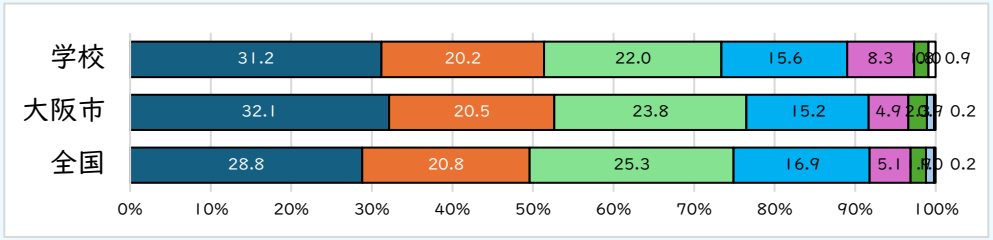
生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

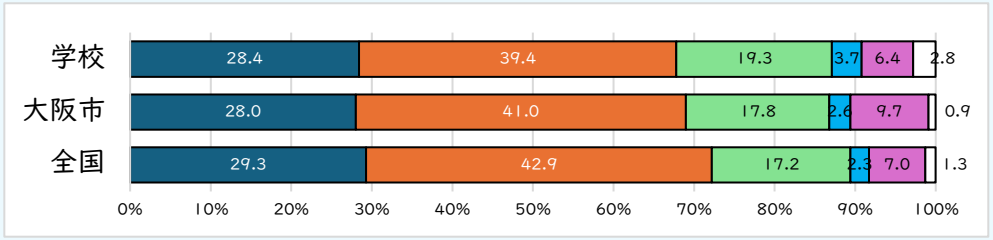
質問番号	質問事項
（3）	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
（4）	昼夜（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォ
（6）	学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか
（12）	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
（72）	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



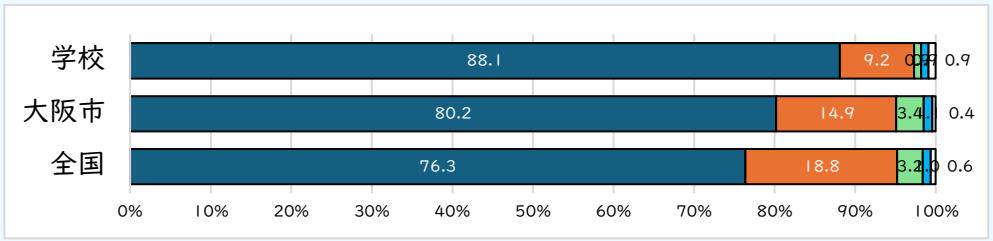
1 している
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない



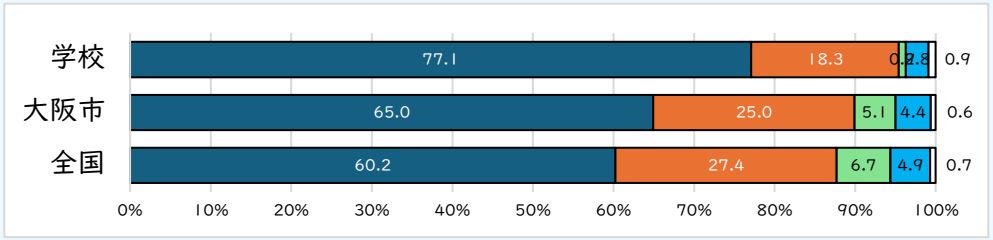
1 4時間以上
2 3時間以上、4時間より少ない
3 2時間以上、3時間より少ない
4 1時間以上、2時間より少ない
5 30分以上、1時間より少ない
6 30分より少ない
7 スマートフォン等を持っていない



1 ほぼ毎日
2 週に1～2回
3 月に1～2回
4 年に1～2回
5 ほとんど、または、全くない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



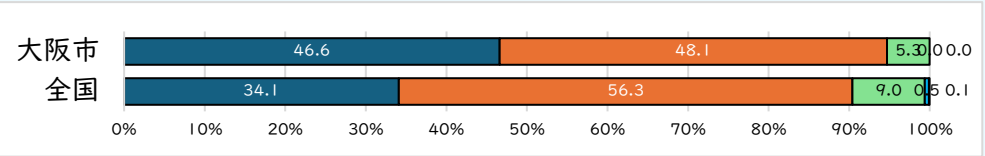
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

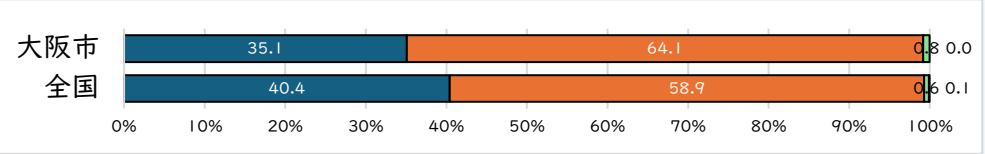
質問番号	質問事項
（９）	調査対象学年の生徒は、礼儀正しいと思いますか
（１６）	ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか
（１３）	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか
（３３）	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか
（９０）	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか

【学校の回答】　１　そう思う



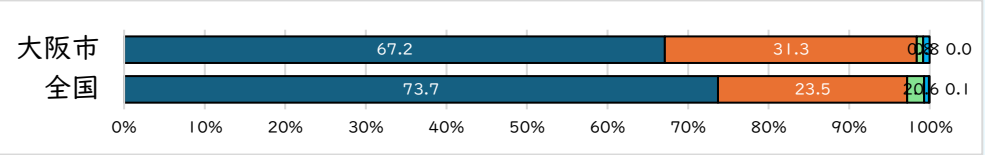
１　そう思う
２　どちらかといえば、そう思う
３　どちらかといえば、そう思わない
４　そう思わない

【学校の回答】　１　十分に取り入れている



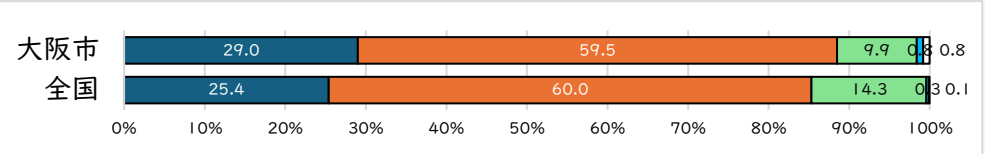
１　十分に取り入れている
２　一部取り入れている
３　全く取り入れていない

【学校の回答】　１　そう思う



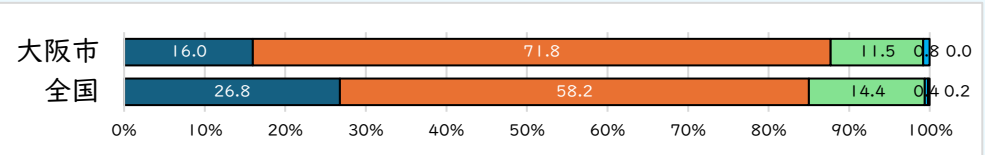
１　そう思う
２　どちらかといえば、そう思う
３　どちらかといえば、そう思わない
４　そう思わない

【学校の回答】　３　あまり行わなかった



１　よく行った
２　どちらかといえば、行った
３　あまり行わなかった
４　全く行わなかった

【学校の回答】　２　どちらかといえば、行った



１　よく行った
２　どちらかといえば、行った
３　あまり行わなかった
４　全く行わなかった